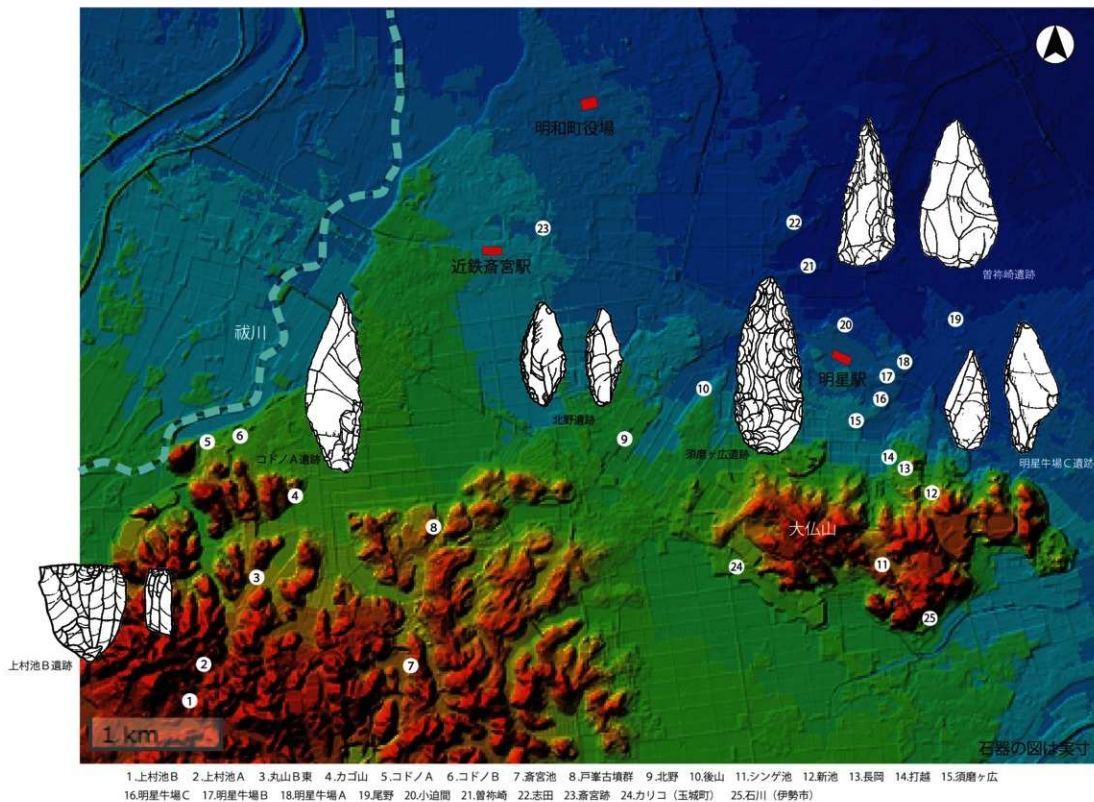


丘陵地に点在する旧石器時代の遺跡



〈旧石器時代の遺跡の様相〉

旧石器時代の遺跡の分布を見ると南部に広がる丘陵地や台地上に多く集中していることがわかります。旧石器時代の遺跡は縄文時代以降のような、人が住み続けて生活を営むような場所というより、狩りなどを行う為に設けたキャンプ地のような場所だったと考えられています。

そのため、旧石器時代の遺跡は縄文時代以降の遺跡のような建物跡などの痕跡は確認されておらず、石器の散布や焚き火などの痕跡がわずかに認められるのみです。



北野遺跡



上村池 B 遺跡



大仏山 (長岡遺跡周辺)

〈石器に使われる石〉

石器とは石を割ったり削ったりして作られた道具で、とても原始的なものです。しかし、石器の製作には決まった種類の石材を使用し、作り方も決まった方法で作られました。

三重県内で、旧石器時代に使用された石材として主流なものは、堆積岩の一種であるチャートです。チャートは割れるとガラスのように鋭い割れ口となるため、石器の石材に適していました。ほかの地域を見ると、ガラス質の火山岩である黒曜石、サヌカイトなどが多いのですが三重県はこれらの産地から離れており、身近に入手できるチャートが利用されていました。



チャート



黒曜石



サヌカイト

ナイフ形石器の分布



〈ナイフ形石器〉

後期旧石器時代に使われた石器の中で代表的なものが、ナイフ形石器です。このナイフ形石器も地域により作り方や形が異なります。三重県は関東地方を中心に分布する茂呂型ナイフ形石器が使われており、分布圏の最西端になります。

茂呂型ナイフ形石器は縦向きに割り出した剥片を材料にし、刃部となる一辺だけを残して刃を潰すように加工して持ちやすいような形に仕上げています。

〈石器の種類〉

旧石器時代にはナイフ形石器以外にも様々な用途に合わせた様々な石器が存在します。

- ・ 掻 器…円形の刃をつけた石器。掻きとったり、皮をなめすのに使われた。
- ・ 削 器…縁辺に刃をつけた石器。削るのに使われた。
- ・ 細 石 刃…押圧剥離によって作られた剥片石器。木の柄に溝を彫り、並べてつけて使用した。
- ・ 角錐状石器…厚手で角錐状となる石器。槍として使用した。
- ・ 尖 頭 器…柳葉形や木葉形などと呼ばれる形をしている。槍として使用した。
- ・ 台 石…石器の製作時に使用される台となる石。石皿と呼ばれる食料の加工用の石器もある。

〔参考資料〕三重県埋蔵文化財センター『曾根崎遺跡（第2次）・曾根崎古墳群』1997

・三重県埋蔵文化財センター『コドノ遺跡・コドノB遺跡（第1次）発掘調査報告書』1998

・三重県『三重県史 資料編 考古1』2005 ・明和町『明和町史 史料編第1巻―自然・考古―』2004

〔発行〕明和町教育委員会・文化観光課（三重県多気郡明和町大字高上945番地）初版 『先人が残した小さな足跡―明和町の旧石器・縄文時代―』解説シート

電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133 E-mail：saiikuato@town.mie-miwa.jp 令和6年7月13日～8月25日

明和町文化財解説シート

先人が残した小さな足跡 ～旧石器時代編～

縄文時代 草創期		土器の出現 神子集型石器
V期		石刃
IV期		小型化した茂呂型 ナイフ形石器
III期		角錐状石器 茂呂型ナイフ形石器
II期	遺跡なし	ナイフ形石器
I期	遺跡なし	台形石器 局部磨製石器

後期旧石器時代の石器の変化（番号は裏面参照）

〈明和に残る最古の遺跡〉

明和町に残る人間の活動の痕跡で、最も古いものが旧石器時代の石器です。上野にある曾根崎遺跡から出土した石器は、形の特徴から三重県内でも特に古い後期旧石器時代III期のものである可能性が指摘されています。III期は今から約3万年前から2万5千年前の時期にさかのぼります。

〈旧石器時代の時期区分〉

日本での旧石器時代は後期旧石器に当たります。この時代は石器の形や地層からⅠ～Ⅴ期に分れます。

三重県ではIII期から遺跡が出現し、角錐状石器やナイフ形石器が使われました。IV期では遺跡が増え、小型の茂呂型ナイフ形石器が使われます。V期では押圧剥離という技術で作られた石刃が使われるようになります。

気候や技術の発達に伴い石器の形状などが変化します。寒冷な時期には革の使用に伴い掻器が発達しました。また、石刃は少ない石材量で使用できる石器として普及しました。



曾根崎遺跡出土（三重県埋蔵文化財センター蔵）

〈旧石器の発見〉

明和町ではナイフ形石器などの資料が多くあります。これらの資料は発掘調査により出土した例もありますが、ほとんどが表採資料です。表採資料は踏査によって発見されてきました。踏査とは、地表に落ちている遺物を見つけて、その地点をデータ化することで遺跡の存在や範囲を推定する調査方法です。町内では町で行った遺跡分布調査や個人による調査などが過去に行われてきました。町の南部にある丘陵地に点在する旧石器の遺跡の多くは、ひたすら地面を見ながら歩き、その小さな遺物を見つけていくという地道な調査によりわかってきたことなのです。



昭和57年に上村池A遺跡で表採されたナイフ形石器